

令和 7 年度 三田市障害者基幹相談支援センター事業報告（4 月～12 月）

総括

基幹相談支援センターは、平成 29 年度に社会福祉法人光耀会が三田市から受託し、今年度は 3 期目 9 年目となった。障害者総合相談窓口「きいてネット」の一員として他法人が運営する障害者生活支援センター、精神障害者支援センター、障害者就業支援センターと協働し、三田市の相談支援の中核的な機能を担った。

基幹相談支援センターの主たる業務は、相談支援事業者の人材育成、地域の相談支援体制強化、地域生活支援拠点の整備、自立支援協議会の運営であり、これまで積み重ねてきた事業やネットワークを活かして、今年度もさまざまな関係機関と連携し地域課題の解決に向けた取り組みを行った。

1. 総合的・専門的な相談支援の実施

「きいてネット」内の 4 つの事業所がそれぞれの専門性を活かしながらワンストップで幅広い年代、障害に関する様々な相談に対応した。発達障害や精神障害の相談が多くより専門的が必要とされている。相談内容は「福祉サービスの利用に関する支援」の次に「家族関係・人間関係に関する支援」が多い。家族間のトラブルや親の高齢化に伴う子どもの将来への不安等の相談があり、1 件あたりの支援時間が長く支援期間も長期化している。

(1) 相談支援を利用している障害者等の実人数 (単位：件)

	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	難病	その他	合計
障害者	23	4	66	74	24	2	4	25	212
障害児	1	8	3	1	3	0	1	1	18
									230

(2) 支援方法 (単位：件)

訪問	来所	同行	電話	メール	支援会議	関係機関	合計
52	128	28	432	103	29	500	1,272

(3) 支援内容（重複あり） (単位：件)

福祉サービス利用	障害や病状の理解	健康医療	不安解消 情緒安定	保育教育	家族関係 人間関係	家計 経済	生活技術
436	135	169	234	11	260	66	33

就労	社会参加 余暇活動	権利擁護	障害者 差別	障害者 虐待	自立生活 地域生活	地域生活 支援拠点	合計
74	36	51	0	41	196	20	1,762

2. 地域の相談支援体制強化の取組み

(1) 相談支援専門員研修の実施、専門的な指導、助言

月 1 回の相談支援事業所連絡会や相談支援専門員研修などの定期的な機会を設け、相談支援専門員の質の担保を目的とした内容を実施した。また 1 事業所では対応が難しいケースは基幹相談支援

センターが相談支援専門員と協働し、ケース対応や個別支援会議の同席、助言等を行った。

相談支援専門員を対象とした研修については「地域自立支援協議会 相談支援事業所連絡会報告書」に記載する。

(2) 地域生活支援拠点等に係る専門的人材の確保・養成の取り組み

「強度行動障害支援事業所連絡会」開催

強度行動障害者の事業所の受け入れが困難であったり社会資源が乏しいという課題がある中で、専門的な対応ができる人材の確保や養成、また地域全体の「支援力」の底上げを図るため、昨年度より市内7法人の事業所の支援員を対象に「事例発表⇒実践⇒フィードバック⇒再検討⇒評価⇒支援方法定着のながれで年間を通して事例検討を行った。

場所：総合福祉保健センター・参加事業所

開催日	項目	参加人数
5月22日	講義「自閉症の特性と学習スタイル」 講師/一般社団法人自閉症 e プロップサービス全国 ネット 真船氏	30名 (7事業所)
6月26日	講義「評価 一人ひとりの状態や特性を理解しよう」 講師/プロップにしのみや 熊倉氏	24名 (6事業所)
7月10日	放課後等デイサービス「プロップはんしん」見学 講師/熊倉氏	18名 (5事業所)
8月14日	講義「構造化による支援」 講師/熊倉氏	21名 (6事業所)
9月25日	講義「成人期の支援/行動上の問題の理解と対応」 講師/NPO 法人 U-topia 宮川氏	23名 (6事業所)
10月23日	事例検討・事業所見学/三田わくわく村 2事例 講師/熊倉氏 オブザーバー/WELnet さんだ 3名	29名 (6事業所)
12月18日	事例検討・事業所見学/三田こぶしの園 講師/熊倉氏	22名 (6事業所)
1月22日	事例検討・事業所見学/中央デイサービス 講師/熊倉氏	16名 (5事業所)
2月26日	事例検討/スクラム 講師/熊倉氏	22名 (5事業所)
3月12日	(予定) 事例検討/沢谷荘、三田わくわく村放課後等 デイサービス 講師/熊倉氏	—

参加事業所一覧：7

【通所事業所】三田わくわく村、中央デイサービス、のぞみ作業所、スクラム

【入所施設】三田こぶしの園、沢谷荘、東山荘

【事務局】基幹相談支援センター

(3) 地域相談機関・支援者との連携・協力体制の構築・強化

相談者の問題が複雑化しており、相談支援専門員にも幅広い知識が求められる。また他の関係機関との連携が欠かせない中で、これまでケースや会議・連絡会等の参加を通して様々な機関との関係が構築されてきたことが活かされていると感じる。市内・圏域等の連絡会等に参加し、情報共有と連携強化を図った。

	項目	回数
市	基幹間連絡会議	毎月
	さんだ子どもネット	2か月毎
	さんだ子どもネット課題部会	〃
	ヘルパー事業所連絡会	〃
	地域移行連絡会	〃
	教育相談	随時
	藍包括支援センター定例会議	6回
	市立学校における医療的ケア運営協議会	1回
	地域福祉審議会	1回
	地域福祉協働推進ネットワーク	1回
	権利擁護・成年後見利用促進地域連携ネットワーク推進協議会	1回
	生活困窮自立支援事業支援調整会議	1回
	市立ひまわり特別支援学校事業所連絡会	1回
	重層的支援体制整備事業 実務者会議	1回
阪神圏域	阪神圏域配置医療的ケア児等コーディネーター連絡会	毎月
	阪神北圏域主任相談支援専門員定例連絡会	2か月毎
	西宮市障害者介護給付費等審査会	3か月毎
県	市町相談支援担当者・基幹相談支援センター等連絡会議	2回
	医療的ケア児等市町コーディネーター担当者会議	1回
	地域移行・地域定着支援推進連絡会議	1回

(4) 相談支援従事者研修

兵庫県相談支援従事者養成研修の企画構成委員・講師として相談支援専門員の育成を行った。

開催日	項目	主催
4月～1月	兵庫県主任相談支援専門員養成研修 企画構成委員会	兵庫県
6月4日～6日 11月13日、3月6日(予定)	相談支援従事者指導者養成研修 人材育成コース受講	厚生労働省・こども家庭庁
9月～10月 (5日間)	兵庫県主任相談支援専門員養成研修 講師	兵庫県
11月12、25日、12月4日	兵庫県相談支援従事者初任者研修 実習受け入れ(4名)	兵庫県

3. 障害者差別解消のための取組み

令和6年4月から事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されたことにより、昨年度に続き市内の企業と福祉的就労事業所を対象に研修を行った。今年度はハローワークに協力してもらい市内の企業へ周知したものの、企業の参加が少なく課題が残ったが、参加者からは「障害者に優しい事業所になっていきたい」「今後も福祉の事業所と企業が交流できる機会をもってほしい」という声が聞かれた。

開催日	項目	参加人数
1月23日	「合理的配慮で変わる職場づくり研修」 講師：神戸女子大学 植戸 貴子教授	54名 ※企業・学校8名、就労系事業所13名、行政28名、ハローワーク1名、きいてネット4名

4. 障害者等に対する虐待防止の取組み

障害者虐待相談ダイヤルを基幹相談支援センターに設置し24時間の相談に対応した。虐待の相談件数としては13件（内5件が認定）、虐待の類型としては心理的虐待が最も多かった。

市内の事業所より職員向けの虐待防止研修の依頼があり、虐待防止と身体拘束についての研修を行った。

5. 障害の理解・啓発

(1) ソーシャルスキルトレーニング (SST)

少人数の参加者で対人関係の課題から「テーマ」を決めて、相手と良い関係を維持していくためのスキルを身につけるため参加者全員で意見を出し合いながら学んだ。3月には希望が多かった「友達づくり」をテーマにして市内の就労継続B型事業所の場所をお借りして広く参加者を募り交流会を開催する。

開催日	場所	テーマ	参加人数
5月3日	福祉保健センター	職場で困ったときに上司への伝え方	5名
7月5日	福祉保健センター	母親に自分の気持ちの伝え方	5名
8月2日	福祉保健センター	周囲に自分ってこんな人だと伝える	3名
9月6日	福祉保健センター	初対面で会話を続ける方法	4名
10月4日	福祉保健センター	相手を怒らせないように断る方法	5名
11月8日	福祉保健センター	聞き逃したことをもう一度確認するとき	4名
12月6日	福祉保健センター	人との距離感について	5名
2月7日	福祉保健センター	楽しく会話を続けるには	5名
3月7日	うどん屋セサミ	(予定) 友達づくり「双方向会話」について	—

(2) ペアレントトレーニング「かんがる一教室」

昨年度に続き、発達に心配のある未就学児の保護者を対象にペアレントトレーニングを実施した。基幹相談支援センターは事務局を担った。ひょうご発達障害者支援センタークローバーのプログラムを基に家庭での子どもとのかかわり方について学び、参加者からは「子どものいろいろな成長を感じられ自分も成長できた」「お母さん同士のつながりが出来た」という感想が聞かれた。

場所：総合福祉保健センター

開催日	項目	参加人数
4月18日	令和6年度かんがる一教室参加者 茶話会	7名

5月9日～ 7月11日 (全6回)	講師：障害者生活支援センター大前氏、UT キッズさんだ 岩城氏・堀氏、森山氏	6名
10月10日～ 1月30日 (全6回)	講師：障害者生活支援センター大前氏、UT キッズさんだ 岩城氏・堀氏、森山氏	6名

(3) 地域の居場所「ゆるり」(6回開催)

場所：総合福祉保健センター

障害の有無に関係なく誰もが参加できる地域の居場所として2か月1回金曜日に開催。今年度で45回目を迎えた。食材はパスカルさんだより提供していただくこともある。参加者からは「皆でご飯を作って食べたり交流が楽しい」という声が多く、カードゲームを楽しんだりギター演奏など得意なことを活かせる場にもなっている。長年引きこもり状態にあった方が家から出るきっかけにもなった。

・主催：基幹相談支援センター、精神障害者支援センター、就労継続B型アイクロッソ

(4) 社会資源マップづくり、街歩きイベント

車いすを使用している当事者と関西学院大学ボランティアサークル「エコハビ」と福祉関係者が「Wheelog」というスマートフォンアプリを使って「お互いが助け合える仕組みづくり」を行っている。基幹としてもこの活動に賛同し誰もが暮らしやすい三田を目指して街歩き、啓発イベント、啓発、会議等を行った。

(5) パラスポーツ「ボッチャであそぼう！」

障害者スポーツを通して共生社会を目指す関西学院大学生が企画した「ボッチャであそぼう！」のイベントを協力して実施した。

開催日	場所	参加人数
6月22日	三田市総合福祉保健センター	15名
12月19日	三田市総合福祉保健センター	21名

(6) 「三田市の障害者の生涯学習推進をめぐる懇親会」への参画

兵庫県教育委員会社会教育課は2022年度から文部科学省より「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制構築事業」を受託し、神戸大学大学院人間発達環境学研究科ヒューマン・コミュニティ創成研究センターと連携協力した事務局体制を構築している。この事業では成人の障害者が余暇や学習のために過ごせる場所が地域で不足しており、その改善に取り組む事業を地域で考えていく進めている、三田市においても地域で検討していく場として「三田市障害者の生涯学習に関する懇話会」を定期的で開催している。

・懇親会をきっかけとして生まれた新たな連携・協働「博物館 de ピラティス」

障害者の余暇活動を支援し、専門家から直接学べる機会として実施した。

開催日	場所	参加人数
8月29日	県立人と自然の博物館 コレクションナリウム	7名
12月5日	県立人と自然の博物館 本館	4名

6. 研修

(1) 実践発表・講師

開催日	項目	主催
7月1日	「三田市ペアレントトレーニングの取組み」	ひょうご発達支援センタークローバー
11月28日	依存症対策総合支援事業 地域の支援者のための研修会「知的障害がベースにあり、専門病院へ通院継続しているが飲酒を継続しているケースへの支援」	宝塚健康福祉事務所
12月10日	手をつなぐ育成会 オープン講座 「知的障害のある子の将来を考える」	三田市手をつなぐ育成会
1月16日	「サービス支給量を超える申請について」	川西市相談支援部会
1月22日	「三田市の障害福祉サービスとその役割」	けやき台・すずかけ台民生児童委員研修

(2) 研修参加

開催日	項目	主催
7月7日	「医療的ケア者限定グループホーム・短期入所の実践」	丹波篠山市手をつなぐ育成会
8月31日	ひきこもり支援研修	ひょうごこころの医療センター
9月8日	兵庫県相談支援従事者スキルアップ研修 触法コース	兵庫県相談支援ネットワーク
9月24、25日	医療的ケア児等コーディネーター養成研修	兵庫県社会福祉士会
10月28、30日	障害者地域生活支援体制整備研修	厚生労働省
11月15日	阪神地区精神障害者家族会研修会	ひょうかれん
12月3日	医療的ケア児の保育所入園事例勉強会	NPO 法人フローレンス
1月24日	三田地域小児在宅医療研修会「一時の安らぎを求めて」	三田市医師会